



くすのき



No. 79

R2年3月発行

◆ 本年度最後の月になりました ◆

いよいよ3月、本年度最後の月となりました。中学生も小学生もそれぞれの学び舎を元気に巣立って行ってほしいと思います。

補導員の皆様には、日ごろから子どもたちの安全確保にご尽力いただきありがとうございました。お陰をもちまして大きな交通事故や事件等なく1年を終えることができますことに感謝申しあげます。3月末で補導員を交替される方、今までありがとうございました。継続される方、次年度もよろしくお祈いします。

4月の補導予定

補導員全体会を開催します

日時: 4月24日(金) 午後1時30分から

場所: 蒲郡市民会館 大会議室

よろしくお祈いします。



◆ 性教育とは「人間として生きていくために必要な心の教育」です ◆

先日ウィルあいちで行われた「子どもの性被害防止シンポジウムあいち」で東京医療保健大学医療保健学部教授の渡會睦子先生の講演がありました。講師の渡會先生は、山形県で保健師として働いていたとき、当時人工妊娠中絶率全国ワースト3位だった山形県を、「人間として生きていくために必要な心の教育」を行うことでワースト46位までに改善させた実績をお持ちです。

「性教育は得意ですか？得意だという人は手を挙げてください。」参加者に向かって先生が尋ねます。会場はざわざわしましたが、手の上がる様子は見られませんでした。「難しいと思われる方は？」ほぼ全員の手が上がります。もし、中高生の子が「誰にも迷惑をかけてないんだから、セックスしてもいいじゃないか」と言ってきたら、みなさん、何て答えます？思春期真最中の子どもたちは、心と体のバランスが取れず、イライラしたり、自分自身に価値を見出せなかったりしています。しかも思春期が一生続くと思ひ込んでいます。それで死にたいと言ったり、リストカットをしたり、性の逸脱行為をしてしまいます。そう、今、心がぐちゃぐちゃで辛いね。でもね、思春期終わると教えてあげてください。もうすぐ楽になって、ぐちゃぐちゃの心も治まるよと伝えてください。それが自殺予防になるんです。今、ぐちゃぐちゃだけど、もうすぐ終わるんだと分かれば、将来のことを見通すことができるようになるのです。パパ活と呼ばれる援助交際を繰り返すような女子高生には、この行為によって、人工妊娠中絶を受けたり、性感染症にかかったりして不妊になるリスクを話します。今は、考えられないかもしれないけど、もしかしたら、将来結婚するかもしれない。だから、将来の自分や自分の家族を守るため、今はしない方がいいと答えます。将来どうなるか分からないから、今の体を大切にしてほしい。大人がやってはいけないというものには理由があるんだよ。そう言ってあげてください。



この性教育では「自分を守ること、相手を思いやること」が基本にあります。心の教育を通じて山形の人工妊娠中絶率が下がりましたが、同時に高校生の服装や町の中がきれいになるという効果もありました。自分の町を守るといふ心も育ったようです。性教育、難しくないでしょう？

◆ 編集後記 ◆ 3月2日、蒲郡市のホームページがリニューアルオープンします。



このリニューアルオープンに伴い、青少年センターのトップページが新しくできました。これからも、わかりやすい情報発信に努めてまいりますので、ぜひご覧ください。